

# 地域が支える 地域を支える ～災害時のたすけあいの仕組み～

## 令和7年 第29回沼津市社会福祉大会記念公演

日時:9月3日(水曜日)

時間:13:30～15:00 定員:150人(第2部)

会場:サンウエルぬまづ4階多目的ホール

主催:沼津市社会福祉協議会

講師:特定非営利、活動法人 代表 李 仁鉄氏

【パネリスト】 千代 幸嗣氏(しぞ～が・まめっ隊)、 玉木 優吾氏(河津ボランティアセンター)



李仁鉄氏



千代氏・玉木氏

李 仁鉄氏は、1974年山形県生まれ、1997年新潟大学法学科卒業し2004年7月の水害で被災し初めて『災害ボランティア』を見近に感じたそうです。3ヶ月後に発生した中越地震の際にはボランティア活動に参加、そこで知り合った仲間から誘われ『にいがた災害ボランティアネットワーク』に参加。会の法人化に伴い常任勤職員となり、2008年より事務局長、からは理事長に就任。

【支援を「拒む」被災者心理】①自主独立の思い 「自分のことは自分でしなくては」「ひとの世話にはならない」②プライバシー 「家の中を見られたくない」 ③遠慮・恐縮 「自分より大変な人が」「大変な仕事させたら申し訳ない」

④不安感・不信感・不明 「あなた、誰?」「お願いして大丈夫な人なの」「何をしてもらったら良いのか…」「どうして良いかわからない」(身近な自治会・包括などを活用)他などの説明がありました。

本日の講師・李仁鉄氏進行のもと、二つの団体・パネルディスカッションを行いました。

① しぞ～が・まめっ隊(静岡弁)千代幸嗣氏から、令和4年9月、静岡に被害をもたらした台風15号概要の説明がありました。静岡市災害ボランティアセンターにて床下作業などを行ってきたボランティアが集まりチームをつくりました。床下作業だけでなく必要とされる災害対応をボランティアで行っている。



パネリスト風景

②河津ボランティアセンター代表玉木優吾氏から、災害ボランティア活動から学ぶ下田市講演会「被災したガレキの中から見えたこと聞えたこと」河津桜まつりでの活動を機に開設したボランティアです。河津桜まつりの中は会場駐車場や道路情報など、日頃は地域活動等をおこなっています。当センターを大切にしてくれる心温かい有志の集まり、活動の中心 原地区住民の水害は賀茂郡圏域です。当センターは河津桜まつり実行委員会等に協力しておりますが、有志の別組織となります。紹介がありました。また、本日は飛龍高校の学生さん授業の一環と学んでいました。また実際の災害にあった原地区の災害状況の説明があり、いつ災害が起こるか分かりません、若い人の活躍が今後どう活かされるかが課題です。

状況の説明

飛龍高校生



- 一、福祉人材の発掘・育成に努め、人と福祉をつなげる。
- 一、人と地域をつなげ、地域の福祉力を育む。
- 一、福祉サービスの充実強化を図り、人と環境をつなげる。
- 一、ともにつながり、ともにささえあう、元気なまちづくりを目指す。

最後に沼津社会福祉協議会殿、代表に井上氏(大岡地区担当)災害に積極的な対応にたいして、特別な表彰状が贈られました。

講師から特別な表彰状授与

